

## 第6回 南丹市環境審議会 議事録

日時：平成23年2月15日 13:30～15:30

場所：南丹市園部公民館 3F 中研修室

### 〈出席者〉

中川委員、仲 委員、井尻委員、高屋委員、滝野委員、谷尻委員、原田委員、  
堀川委員、前田委員、山下委員、用澤委員、宮田委員、松本委員  
(欠席：松田(茅)委員、田中委員、松田(清)委員)

### 〈次 第〉

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 審議事項
  - 1) 温室効果ガス削減について ～WGでの検討報告～
  - 2) 南丹市環境基本計画素案についての検討(資料1)
  - 3) その他
    - 今後のスケジュール等
4. 閉 会

## 〈 1. 開会 ～ 2. 会長あいさつ 〉

事務局進行のもと、執り行われた

## 〈 3. 審議事項 〉

### 【 1) 温室効果ガス削減について ～WGでの検討報告～ 】

(事務局より資料および今後のスケジュール管理等の説明)

会 長：前回の審議会から、WGの中で検討すべきことがあった。ポイントは 12.5% の目標について、国の目標が 25%であるから、もう少し頑張って 26%にすべきだろうという点。そうでなければ一生懸命頑張る甲斐がないのではないかということだった。ただ問題は、南丹市に進出する企業を抑えようというのではなく、全国レベルの高い実績を上げている森林組合に頑張ってもらおうということであり、環境の面もきちんと守りながら産業の面でも参入しやすいというように、市の方向性としてメリハリをつけた結果が 26%であった。25%でも問題はないが、全国や京都府を上回る高い目標にした。もう一点は将来推計で、数値的にどれが一番いいのか大分悩んだ。結果、バランスのいいところに収まった。

計画書の第 6 章についてもあわせて、何か意見はあるか。

委 員：将来推計について、現在の経済状況、今後の企業誘致計画などを考慮して見直したとのことであるが、どのように反映させたのだろうか。

事 務 局：まず今後の企業誘致計画について、現在、新光悦村に誘致のための用地がある。面積としてはまだ残っているが、現在誘致の意向を持つのは、製造業といっても小規模な工房であったり、教育機関などであるため、製造業からの排出量に大きく影響を与えることはないだろうということだった。今回最終的に示しているのは南丹市の統計結果のみだが、京都府全体の統計データを考慮し、京都府全体での今までの動向を踏まえると、それが若干遅れて南丹市にも表れてくるという経済的な推計手法もあり、資料をもらって試算してみた。京都府全体でみると製造品出荷額は年々減少傾向にあり、その推計手法を採用すると、南丹市についても今後減少していくだろうという推計結果になった。しかし、減少していくという推計では、今後も誘致計画などを進めるとした市の総合計画にも反するため、経済学の先生にも相談して推計を行った。

会 長：データがあった上での話であれば、最終的に載せるかどうかは別として、委員の方にもデータを示すといいかもしれない。

委 員：今の話でよく分かった。パブリックコメントなどで質問が出るかもしれないと思ったので確認した。

## 【 2）南丹市環境基本計画素案についての検討（資料 1）】（事務局より説明）

### ○第 1 章について

会 長：何か意見はあるか。

委 員：P7「市民・来訪者、事業者、市（行政）」だが、それぞれの定義がほしい。例えば「市民」については本市において日常生活を送る者、「来訪者」については通学・通勤、旅行など本市に滞在する者、というように。ただ「事業者」については、事業というと農業が外れてしまいそうな気がするので、農業・工業・商業に関わらず事業活動を行う者、などとしてほしい。定義を入れてもらえれば、見る人も理解できるだろうと思う。「市（行政）」については、環境づくり推進の中心的役割を担う、というのを是非入れてもらいたい。

会 長：その方がいいだろう。定義はどこに入れるべきか。

委 員：P3のトライアングル図のところでもいいと思うが、P7の方が分かりやすいだろう。

会 長：収まりのいいところに入れてほしい。他にあるか。

委 員：P2「本市を取り巻く背景」について、4行目「ほ場整備などのさまざまな環境の変化」というのが、何を指すのか分かりづらいと思う。

事 務 局：審議会や調査、ヒアリングなどを通じて、例えば水田をならした時の濁り水などは、自然の排水路だと徐々に浄化されてから川に流れており、農薬についても水草などがある程度吸収していたのだが、コンクリート水路になってからはそのまますぐに流れ出てしまい、川が濁るようになったということだった。利便性はよくなったが、環境面では負荷になっている部分もある、という意見を書かせてもらった。しかし、何も知らない人にとってはこの表現では不足のように思う。表現の修正を検討したい。

委 員：そういう意見があったのは記憶しているが、読んだ時に違和感を覚えた。何か説明があるといいと思う。

### ○第 2 章について

会 長：データをできるだけ最新のものに修正したようだが、何か意見はあるか。

委 員：グラフに新しいデータを追加しているが、その一方で古いデータを省略してしまうという考え方もあると思う。データがあるものは全部入れるという考え方なのか、それとも省略してしまうのか、考え方をある程度統一しておいた方がいいと思う。

会 長：どれが省略したものだろうか。

委 員：例えばグラフにより、古いものは隔年で出ているのが、新しいものになると毎年出ているというものもある。質問があった時に、こういう理由でこうしたというのをきちんと説明できるようにした方がいいと思う。

会 長：例えば P23 図 2-8 では毎年出ているが、他にはどこがあるだろうか。

委員：例えば P13 図 1-11, 12 で、始めは 2 年ごとに出ていて、後の方になると毎年出ている。

会長：図 1-12 出荷額の推移については、平成 19, 20 年のデータが飛び抜けて大きくなっている。このまま伸びるのか、平行でいくのか、下がるのか、先ほどの将来推計の検討の際に大きな問題になった。ここに限っては最新のデータを出さなければどうにもならないということになり、このようになった。

事務局：製造品出荷額に関しては先ほどの温暖化と関係があり、基準年が 1990 年（平成 2 年）のためそれ以降のデータを出している。また、統計データの調査年により、5 年ごとであったり毎年であったり様々だが、入手できたデータは最大限出している。製造品出荷額に関しては他の統計と違って速報値を掲載しているが、より実態に即した将来推計をする上で使用した。その他、人口などについては、合併以前からのものも含め、人口動態や経済の推移などが分かるように、できるだけ長期間のデータを掲載している。P23 の電力需要量などについては、関西電力から得た情報を入れているのだが、これ以前は出なかったなど、情報提供側の都合もある。できるだけ全体の推移を読み取れるようにしている。

会長：P13 図 1-13 については昭和 57 年から入れている。データが長期間ある方が推移がよく分かるということもあるが、どうだろうか。

委員：説明ができるようなグラフの出し方をしている、ということであれば問題ないと思う。

会長：それでいいだろう。他に何かあるか。

委員：P10 「人口・世帯数」で、上から 3 行目「堅調な増加傾向にあり」とある。「堅調な」という表現はどうだろうか。P17 図 2-3 のグラフはこれ以上大きく出来ないだろうか。各項目の数値が分かりにくい。

会長：グラフは工夫してほしい。「堅調な」はどうするか。

事務局：削除する。

### ○第 3 章について

委員：前回 P36 に写真を入れようという話が出たと思う。例えば生活環境であれば、南丹市内の優良住宅の写真を入れてはどうか。地域環境資源であれば、市指定の文化財、府指定の天然記念物などを入れてはどうか。資源循環であれば、河川美化活動をしている写真を入れてはどうか。

会長：写真はあった方がいいと思うがスペースがあるだろうか。事務局の方で検討してほしい。

#### ○第4章について

事務局：P50「数値目標①年間間伐面積」についてだが、森林の所管部署では、今後伸ばしていきたいという思いはあるが、間伐事業の補助制度が大きく変わることもあるため、現状の実施面積以上を確保するということで800ha以上としていた。ところが温暖化の話の中で、森林吸収を増やしていくとなると、間伐面積を今後増加させていく施策が必要となる。市として目標の数値を出していくところもあり、逆に審議会の方から、ここまで頑張れなどのご意見をいただきたく、空欄にしてある。

会長：まずP50以外で何か意見はないか。

P52「①下流域と連携した～」の「事業者」で、「有害化学物質を適正管理し」という表現は適当だろうか。

事務局：有害化学物質を使っているところは当然あり、それを使わざるを得ない部分もあるため、使うけれども必要最小限に止める、ということである。全く使わないのは無理である。

委員：適正管理という表現は使っていたと思う。私はあまり違和感がない。

事務局：環境省のパンフレットなどでも使っていたように思う。

会長：それなら問題ないが、念のため一度確認をお願いしたい。他に意見がなければ、P50年間間伐面積はどうするか考えたい。

委員：国の間伐に対する考えや大きな流れとしては、さらに間伐を進めようということだと思う。行政としてどうするか、組合を含めて森林所有者、事業者がどのように取り組むかということだろう。個人的には、ある程度は増えていくと思う。下手な間伐をしてしまうと補助金も出なくなるため、森林組合などもきちんと取り組もうとしている。実際についていけるかが問題だが。

事務局：WGでも相当議論いただいた。行政として、今すぐ今後の方向が分かるわけではないが、エネルギーを取り巻く問題で、自国の資源をどう管理するかという問題もある。また、脱ダムの動きが全国で出てきている。なるべくダムを作らず、水源かん養を森林の役割で見直そうという流れがあり、森林に対する行政の意識はある。

委員：空欄はよくない。それなら項目自体を外すべきである。

委員：年間間伐面積を外すわけにはいかない。前は800ha以上だったが。

委員：日吉町森林組合では年間250～300haである。今のサイクルでうまく回るようになっているため、日吉の管轄でこれ以上増やすのは難しい。今、八木町森林組合と協働で増やしつつあり、その部分が年間100haほどいけるかもしれないといったところである。今年度すでに15haほどしている。

委員：他の2町の考えはどうだろうか。

委員：それは分からない。

事務局：南丹市にとって、河川・森林をどう活用していくのかは大きなポイントになると思う。今後の方向を示唆する環境基本計画に数値目標を挙げ、いかにそれに近づけていくかが問われている。予算面が気になるが、平成32年まではまだ時間があるため、その中でなんとか目標に近づける努力は必要と考える。森林組合の組織形態も、いずれは積極的合併もあるかもしれない。計画なので見直しも必要であり、今後の状況によっては、CO<sub>2</sub>削減の森林依存への度合いも少しでも緩和できるようになるかもしれない。審議会の意見をよく聞き、今日結論を出そうという思いでいる。

委員：ここで挙げているのは5年後の数値目標なのか。

事務局：計画としては10年だが、前半・後半で分けるため、この数値目標は5年後である。

委員：最終的には1,200haほどでもおかしくないと思うから、5年後なら1,000haでもいいかもしれない。1,000haなら可能性はあるかもしれない。

会長：私たちが適当に言うのと違い、現場をよく分かった上で1,000haという数字を出してくれたのなら、ここはそれでどうだろうか。もちろん委員個人の意見ではなく、審議会全体の意見として出すのだが。

事務局：先ほど実現の可能性を含めた意見をいただいたので、その上で審議会として、これくらいは目指そうという意見をいただきたいと思うが。

会長：1,000haにしておいて、合併など、状況が変われば修正するというのは自然な話だろう。

委員：美山町の森林は広いので、そこがどれだけ動くかだろう。

委員：4町全面積の推移として、増減はあるのか。

委員：ここ10年、20年は変わっていないように思う。

会長：間伐すればするほど奥の方が残り、コスト高になっていかないのか。

委員：一度道をつけると、後は年に一度くらいメンテナンスをすればまた使えるので、コストは大きく落ちる。

委員：今、間伐をしているのは日吉だけだろうか。

委員：多分、ほかは切り捨て間伐が多いと思う。切り捨て間伐は、木材を搬出しないので、面積としては増えることは増える。

委員：詳しいことは分からないが、園部町でも何ヶ所か林道をつけていくような話があったと思う。

委員：林業の事業者と森林組合が提携して、間伐をしようという話である。

事務局：以前の現地調査の際にも見学したが、園部町森林組合の場合は、日吉町森林組合のように作業班が手厚くないため、組合は事業の取りまとめに徹し、作業は民間業者にまかせて、できるだけ多く作業しているようである。

委員：神吉では、松枯れの間伐には東北の方から作業員が来ているようだった。今

は間伐をしてもお金にならないようだ。材木屋に聞いた話では、祇園祭などの鉾に使う木を伐採に来ている人がいるそうだが、木は伐採してそのまま置いておくのが多いように思う。

会 長：これに関してはキリがない。1,000ha でいいのではないだろうか。

委 員：行政としても今の森林の機能をいかに発揮するかが重要というのは理解してもらっている。ここを増やすということが全体の流れになっており、CO<sub>2</sub>を減らすこととも合理的にあっている。

#### ○第5、6、7章について

会 長：5,6,7章について意見はないか。なければ、全体を通しての意見はどうか。

事 務 局：用語解説についても何か意見があればお願いしたい。

会 長：pH の大文字小文字を最終チェックしてほしい。質問、意見がないようなので審議を終わりたいと思う。

#### 【 3）その他 】（事務局より説明）

事 務 局：今日の見解をいただいた修正については、今後のスケジュールの関係上、審議会の開催は難しい。事務局の方で修正したものを正副会長にご確認いただき、パブリックコメントにかけていきたいと思う。

次回の審議会は3月29日（火）13時30分から行いたいと思う。場所についてはまた連絡したい。

#### < 4. 閉会 >

以上